

田名地域まちづくり提言書



平成20年5月

田名地域まちづくり会議

提言にあたって

私たちの田名地域は、市の南部を流れる相模川に沿って東西に長い地域であり、相模川や八瀬川の流れとその周辺に形成されている美しい近郊緑地に囲まれ、住宅地、工業地、農地がほどよく配置されています。

また、古い時代から、この素晴らしい住環境を求め、田名地域には人が集まり、そして住まい、今では3万人を超える市民が生活しており、貴重な史跡と伝統が人々によって引き継がれ、豊かな文化が育まれてきた地域でもあります。

しかしながら、市民アンケート調査の結果が示すとおり、日常生活の暮らしにくさの要因は交通の便が悪いことであり、多くの地域住民が小田急多摩線や新しい交通システムの田名地域への延伸を熱望しています。

この実現のためにも、地域で解決できる課題は地域で取り組むという姿勢のもと、地域住民が将来にわたり安全で安心に、そして快適に暮らせるよう、新しい総合計画及び新都市計画マスタープランの策定にあたって、「田名地域まちづくり会議」を組織し、多様な視点で英知を出し合い、議論を重ね、ここに「まちづくり」の提言書をまとめました。

この提言書は、田名地域だけでなく、相模原市の将来にとっても重要なものであり、新しい総合計画及び新都市計画マスタープランの策定に生かしていただくようお願いいたします。

平成20年5月

田名地域まちづくり会議

会長 田所 昌訓

目 次

1 地域の現況と課題	1
2 重点提言項目(地域重点方策)	2
3 分野別のまちづくり提言	5
(1) 公共交通・道路交通の整備と土地利用	
(2) 健康・福祉	
(3) 安全・安心	
(4) 教育・文化	
(5) 産業・観光	
(6) 自然・環境	
(7) 地域組織活動・その他	
4 提言図	17
(付属資料)	
* 会議経過	18
* 委員名簿	19

1 地域の現況と課題

本地域は、雄大な相模川をはじめ、清らかな八瀬川、河岸段丘などが織り成す魅力的な自然に恵まれるとともに、豊かで広大な農地が守られてきました。

また、「田名向原遺跡」や「烏山用水」、「的祭」や「獅子舞」、「相模原納涼花火大会」や「泳げ鯉のぼり」など、数々の史跡、伝統文化、地域行事に溢れています。

一方、各種の工業団地をはじめとする工業系の産業の進展や、土地区画整理事業や地域開発等による住宅地の形成は、地域を発展に導くとともに、人口増加率は市内の平均を大きく上回り、年齢構成も市域に比べて年少人口の比率が高く、若い人が多いなど、今後、さらに発展が見込まれる地域であるといえます。

しかし、この現況とは裏腹に、地域内には鉄道・鉄道駅がない、幹線道路は日常的に渋滞が激しい、路線バスは運行状況が悪いなど、地域の発展の阻害要因になるとともに、住民の生活への影響は大きく、鉄道や路線バスなどの公共交通をはじめ、道路の整備を進めることが喫緊の課題といえます。

加えて、今後も進むことが予測される高齢社会への取り組み、自治会加入と地域活動への参加を高める対策、犯罪や交通事故防止対策、環境対策をはじめ、農工商業などの産業を発展させるとともに、自然環境を保全・活用していくことが、地域づくりのための大きな課題であります。

2 重点提言項目(地域重点方策)

既存の工業系の産業を維持するとともに、新たな産業の創出を掲げ、広域交流拠点都市を目指す相模原市にとっては、良好な住環境の実現と周辺地域の発展が不可欠である。その最も重要な要件の一つが交通インフラの充実強化でなければならない。

そのためには、住民や企業、相模原市はもとより行政が連携し、市を南北に結ぶ「小田急多摩線の延伸」や「新しい交通システムの導入」に取り組んでいくなど、隣接市町村を見据えながら、田名地域を經由した「新たな交通軸」を形成する。このことが新しい総合計画の基本事項として当然、位置付けなければならない。

田名地域はこの「新たな交通軸（小田急多摩線の田名以南を含む延伸、新しい交通システムの導入）の形成」を前提に、重点事項として次の5点を提言する。

(1) 人にやさしい道路とバスネットワークが充実したまちづくり

新たに南北方向を結ぶ上溝方面への道路、相模川左岸の堤防を活用した東西を結ぶ道路を整備する。また、歩行者、自転車や自動車など、すべての利用者にやさしい道路づくりに向け、都市計画道路相模原愛川線、県道48号（鍛冶谷相模原）、県道63号（相模原大磯）の3本の幹線道路を中心に拡幅や交差点改良、歩道の整備などを進める。

一方、バスについては、バスターミナルの機能を発揮した乗り継ぎの利便性の高いダイヤ設定や料金制度の見直し、バス路線の充実を実現するとともに、バス利用の促進を図る。

(2) 誰にでもやさしい福祉と医療のまちづくり

近い将来には、4人に1人は高齢者の時代が予測されている中、高齢者が元気に生きがいを持って、経験と能力が活用でき、生活できる仕組みづくりに取り組むと

ともに、公民館などの公共施設の活用を含めて、みんなが気軽に利用できる拠点施設づくりを進める。

また、安心して子どもを産み、育て、住民みんなが元気に生活を送ることができるよう、身近な医療機関の充実と第三次医療施設を含めたネットワーク体制の充実を図る。

(3) 地域力で進める安全、安心のまちづくり

自治会を中心に防犯協会をはじめ、地域の各種団体、学校などとの連携を深め、安全パトロールや青パトの活用による防犯活動の強化、さらには災害時における対応の両面に地域力が発揮できるまちづくりを進める。

特に、これらの活動を強化するために、自助・協助の意識のもと、地域の豊富な人材を活用したボランティア、人の輪づくりなども積極的に進めていく。

(4) 地域資源と文化を生かし、環境と調和した適正な土地利用による魅力あるやすらぎのまちづくり

田名地域の豊かな自然は、次代に引き継ぐ貴重な財産であり、「的祭」や「獅子舞」などの伝統文化も大切に残していかなければならない。同時に「相模原納涼花火大会」や「泳げ鯉のぼり相模川」の相模原市を代表する行事はもとより、「相模川ふれあい科学館」や「田名向原遺跡」など相模川を拠点とした「やすらぎのまちづくり」を進める。

また、相模川の資源を生かし、国有地である河川圃場と水田を一体化したスポーツ関連施設を併設した親水公園を整備するとともに、集約した水田を活用した農業へのふれあいを振興し、遊歩道・サイクリングロードや温浴施設などを整備することにより、伝統と文化を中心とした、潤いとやすらぎのある観光の振興を図る。

こうしたまちづくりには、適正な土地利用が欠かせない大きな要件になる。そのため、住環境の整備、工業用地の拡大と集積による住と農と工の分離を図る土地利用計画を策定し、既存の産業の維持と新たな産業を創出することにより、雇用の拡大を可能とする。

これにより、市民生活をはじめ地域の発展、行政活動の拡充を図り、さらには新しい交通軸の形成により相乗効果を高める。

(5) 豊かな心と身体を育む教育と文化のまちづくり

地域内で学ぶ幼児、児童や生徒たちが、次代を担うに相応しい、豊かな心と身体を持った人間形成を目指し、青少年の健全育成に取り組む。そのため、子どもたちの居場所づくりはもとより、地域と教育との連携をはじめ、子どもたちが体育祭、「的祭」や「獅子舞」などの行事や伝統文化を通じた地域の人々との交流により、年齢を超えて親しく話ができ、いつも「あいさつ」と「えがお」が絶えない田名を実現する。

また、公民館を中心に、より一層地域住民が参加するような生涯学習活動や行事を実施するとともに、図書機能を充実することにより、教育の向上を図る。

3 分野別のまちづくり提言

(1) 公共交通・道路交通の整備と土地利用

分野別課題

田名地域には、工業系の産業を中心に多くの工業団地があり、また、地域の住民は地域内外へ通勤・通学し、日常生活を送っている。

しかし、田名地域の公共交通機関が利便性に欠ける路線バスだけであることから、必然的に自家用車の利用が増加し、交通の軸である3本の幹線道路への通勤・通過車両などの集中へと連鎖し、周辺的生活道路への通過車両の進入と交通事故の増加などの要因となっている。

加えて、地域内外の道路の拡幅や交差点改良が進んでいない箇所が多いなど、道路渋滞への悪循環を繰り返している。

さらに、企業においては、優秀な人材確保への障害、通勤時の送迎バスの運行や自家用車の利用など、多くの負担増加を招いている。

土地利用については、住宅地、工業・流通用地、農業用地・自然地などのバランスのとれた地区がある反面、住宅地と工業用地が近接していたり、休耕・荒廃農業用地などが散見できる。

これらを改善するために、田名地区における公共交通機関を中心にした交通環境の整備・充実、環境に配慮した計画的・有効的土地利用の推進が課題である。

提言項目

公共交通機関の整備促進

ア．相模原市への小田急多摩線の延伸を早期に実現し、田名地域への同時延伸を図る。

イ．新しい交通システムの田名地域を經由した路線の早期実現を図る。

道路環境の整備・改善

ア．幹線道路である都市計画道路相模原愛川線、県道48号（鍛冶谷相模原）、
県道63号（相模原大磯）の拡幅整備、交差点改良整備、歩道設置や信号機

設置などを進める。

イ．生活、通学、通勤などの利用で混雑する道路を中心に、拡幅整備、歩道設置や改良整備などを進める。

- ・市道田名452～272号線（久保沢道）
- ・市道四ツ谷半在家線
- ・市道陽原田尻線

ウ．歩道への植栽など、潤いのある道路環境をつくる。

円滑な道路交通の確保

ア．高田橋と昭和橋の間に新しく橋を架ける。

イ．相模川左岸の堤防を活用した道路を新設する。

ウ．都市計画道路相模原愛川線とは別に、上溝から田名地域までを直線で結ぶ道路を新設する。

交通利便性の向上

ア．上田名へのバスターミナルの計画に沿った設置とあわせてバス路線やダイヤを改善するとともに、バス停の場所を見直すなど、バスの利便性の向上を図る。

イ．自家用車の利用を低減するため、バスの利用を地域の住民に促進する。

ウ．高齢者・障害者対策とあわせて、路線バスのコース以外へのコミュニティバスの運行を研究する。

エ．JR相模線の複線化を実現し、利便性を高める。

計画的・有効的な土地利用の推進

ア．緑豊かな住みよい田名の将来のために、土地利用については、住宅地、工業流通用地、農業用地や自然地など、利用区分によるバランスのとれた計画的な土地利用を図る。

イ．地場農産物を確保するため、環境を整備して、優良な農用地を保全する。

- ウ．市民農園などの活用により、耕作放棄地の解消を図る。
- エ．災害時対策を考慮した住宅地や遊休地の形成を図る。

(2)健康・福祉

分野別課題

地域内には医療機関が7、歯科医院が10あり、身近な医療機関として住民に安心感をもたらしてきたが、今後も進行することが予測される少子高齢化や住民医療を考えると、より一層の医療体制の整備や健康づくりの仕組みと充実が必要である。

また、一部の地区では、住民の半数以上が高齢者になりつつあり、高齢者や障害者が安心して快適に生活するために必要な、多様な支援策を充足させることが求められている。

さらに、安心して子育てができるような環境と体制を整備することが必要であり、これが少子化対策への取り組みと言える。

提言項目

医療体制の充実と健康づくりの推進

- ア．地域内の医療機関と市内外の総合病院との連携を強化する。
- イ．総合病院などの医療機関を誘致する。
- ウ．家庭医（ホームドクター）制度の確立と普及を図る。
- エ．健康維持・増進運動に取り組み、これを普及する。

福祉活動と子育て支援環境が整ったまちづくり

- ア．行政による活動で対応しきれない、細部にわたる福祉活動について、地域をあげて取り組む。
- イ．水郷田名地区で予定している温浴施設や自治会館の活用をはじめ、高齢者が気軽に集まって、元気に活動できるような場所の確保やサークルづくりなどを進める。
- ウ．一人暮らしの高齢者などに「声をかける運動」を進める。

エ．高齢者と学校や幼稚園・保育園との連携による児童との「ふれあい」や育児中の女性たちとの「交流」を進める。これにより、児童への躰、高齢者の生きがい、育児の知識と悩み相談、地域の文化と伝統の継承などが自然と進むことになる。

オ．地域福祉の充実に向け、高齢者と地域ボランティアとの連携を強化する。

カ．公民館やこどもセンターだけでなく、学校施設の時間外の利用などを進め、子どもたちが安心して活動できる場所を確保する。特に、学校施設の利用については、地域ボランティアとの連携も考慮する。

(3)安全・安心

分野別課題

複雑な経済社会の下で、様々な人々が生活している。また、以前のような隣近所の付き合いも希薄になり、地域住民による連携は脆弱化しつつある生活環境にある。

さらに、一部には防犯灯が少ない、見通しが悪い、人通りが少ないなど、防犯環境が不備な地区もあり、児童・生徒をはじめ女性が犯罪被害者になる危険度が高まりつつあるとともに、地域内では空き巣やひったくりなどの犯罪が発生している。

また、渋滞する幹線道路をはじめ、抜け道となる生活道路では、歩行者や自転車が被害者となる交通事故が多発していることから、交通環境の整備はもとより、交通事故を発生させない対策が急務である。

加えて、南関東・東海・神奈川県西部などの地震による大災害の発生が予測されており、相模原市は地盤が強固だというものの、田名地域内の一部では、崖地の崩壊や液状化現象による建物倒壊が懸念されている。

そして、これらの災害が発生したときに、あわてず、落ち着いて、お互いが助け合って人命と財産を守り、復活に向けて努力していけるように、住民の意識を高める必要がある。

提言項目

犯罪を起こさないまちづくり

- ア．地域による安全パトロールや青パトの活動を強化するとともに、住民の防犯意識の高揚を図る。
- イ．登下校時をはじめ日常的に児童や生徒の見守りを拡大・充実する。
- ウ．児童や生徒をはじめ、地域住民の「あいさつ運動」を進める。
- エ．防犯灯の設置など防犯環境を充実する。
- オ．防犯灯の光色を他の色に変える。
- カ．住宅周辺の垣根や塀を低くするなど、犯罪を起こしにくい環境にする。
- キ．警察と地域住民が顔見知りになるように、連携を強化する。
- ク．不在交番の解消を進めるとともに、必要に応じて駐在所の復活を進める。

交通事故を起こさないまちづくり

- ア．住民の交通安全意識を高める。
- イ．学校や家庭における交通安全教育としつけを強化する。
- ウ．交通ルールやマナーを守ることの徹底を図る。
- エ．路面表示やカラー舗装化を進める。
- オ．上田名に整備されるバスターミナルに交番を併設し、安全運転の意識の高揚を図る。

災害に強いまちづくり

- ア．定期的に防災訓練を実施して、防災意識を高めるとともに、災害時の適切な対応を確認する。
- イ．常に、高齢者や一人暮らしの方などの災害時要援護者の確認に努める。
- ウ．ハザードマップを作成・配布して、危険度を住民に認識してもらい、防災意

識を高める。

エ．災害時に食料や飲料水を確保することや、重機所有者の協力による救助について、事業者との協定を結ぶ。

オ．自治会連合会を中心にした避難所の設置と運営の確認や訓練を実施する。

(4)教育・文化

分野別課題

地域社会の複雑化は、個人中心の考え方をもたらし、地域内や各家庭における連携・協調・思いやりなど「余裕のある心」を希薄にしつつあり、その結果、人と人のコミュニケーション不足、子どもを育てる地域力の低下、不登校や問題行動の青少年の増加などを招くことに結びついている。

子どもたちがいきいきと遊び、学ぶための環境整備、各種の伝統文化や行事を通じた人々の交流拡大、公民館を中心にした生涯学習活動の実施などにより、「あいさつ」と「えがお」の絶えないまちづくりを進めることが求められている。

さらに、「相模原納涼花火大会」や「泳げ鯉のぼり相模川」などの行事をはじめ、「相模川ふれあい科学館」や「田名向原遺跡」、加えて、国有地や荒廃地などを活用した親水公園・遊歩道を拠点とした「やすらぎのまちづくり」を進めることが必要である。

提言項目

青少年の健全育成

ア．地域の行事や催事を通じ、子どもたちと地域の交流を深める。

イ．家庭と地域と学校の連携により情報を共有する。

ウ．学校体育館などを利用し、子どもたちの活動の場を提供する。

エ．「あいさつ運動」を進める。

オ．放課後の学校施設利用による「あずかり制度」を導入する。

教育環境の充実

- ア．田名地域へ大学などの教育施設を誘致する。
- イ．田名地区に該当する小学校の学区の見直しを進める。
- ウ．中学校への完全給食の導入とともに食育を進める。
- エ．補助教員の配置などにより学校教育を充実するとともに、地域の教育力を高める。

生涯学習機会の充実

- ア．駐車スペースを含め、公民館の敷地を拡大する。
- イ．田名地域において図書機能を充実する。

伝統文化や地域行事の振興

- ア．獅子舞・的祭などの伝統文化や食文化を振興・継承する。
- イ．「相模原納涼花火大会」や「泳げ鯉のぼり相模川」などの行事を振興・継承する。
- ウ．「相模川ふれあい科学館」¹、「田名向原遺跡」²、親水公園、寺社などを巡る行事や地域商店との連携により、スタンプラリーなどの付加価値を工夫した遊歩コースを設ける。

(5) 産業・観光

分野別課題

地域内の産業は、工業・商業・農業・観光などに分類される。

工業系は、工業団地を中心にした大・中・小規模の各種企業が活動しているが、周辺環境などの問題も多い。

商業系は、大型店舗の進出や後継者問題などにより、旧来の「商店」の経営・継続は難しい。

農業系は、農地の確保はされているものの、採算性・後継者・農業環境などの課題により経営・継続は難しく、一部の農家が地場産物を直売している状況にあり、荒廃農地の増加が目立つ。

観光系は、相模川を中心にした自然、史跡や伝統行事、「泳げ鯉のぼり」や「相模原納涼花火大会」などがあるが、誘客力・リピート力のいずれも観光資源としての地域への貢献度は低い。

いずれも、各産業に携わる人々の方向付けが中心であり、これの認識とともに、地域としての積極的な対応が求められる。

提言項目

工業の振興

ア．住工が混在せず、有効に活用できる土地利用計画を策定する。

イ．公共交通機関と道路網の整備により、環境に配慮した企業を誘致し、工業の振興を図る。

ウ．地域と企業との連携を図る。

エ．田名へ進出しやすい、継続しやすい環境整備を図る。

商業対策

ア．大型店舗があるなかで、個々の商店が成り立つ方策を研究する。

農業対策

ア．新鮮・安全・安心をメリットにして、取組が予定されている「直売センター」などを活用して地場農産物を販売する。

イ．地場農産物を含め、食料自給の必要性を啓発する。

ウ．田名地域全体の土地利用計画とあわせ、農業環境の整備により、農地の有効活用と保全を図る。

エ．農機具の貸出、指導員の配置、市民農園への転用や豊富な人材の活用などにより、耕作放棄地の解消を図る。

観光対策

ア．観光協会を中心に、集客力のある観光資源を開発する。

イ．既存施設や名所を結ぶウォーキングコースを整備する。

ウ．「相模原納涼花火大会」や「泳げ鯉のぼり相模川」などの観光行事や名所などの観光マップやチラシを作成し、広く配布する。

エ．相模川の景観を利用した、地域の人々も利用しやすい温浴施設を設置する。

オ．相模川を活用した川の駅を整備する。

カ．さがみ縦貫道路の整備に合わせ、Ｊリーグのチームを誘致するとともに、Ｊリーグの試合ができるサッカー競技場やこいのぼり会館など、集客力がある施設を整備する。

(6) 自然・環境

分野別課題

田名地域では相模川や八瀬川を中心に豊かな水辺が形成されているが、河川敷や周辺の活用、ホタルなどの水生動物の保護も十分とはいえない。

また、広く住民が憩うための公園も少ない状況にあり、有効な土地利用とあわせた対策が求められている。

一方、相模川河川敷をはじめ、荒廃地や段丘林などへのごみの不法投棄、放置車両は、深刻な環境悪化をもたらしている。

加えて、本地域には社会発展とあいまって発生する産業廃棄物の焼却・積み替え・保管などの処理関連施設が多いが、この中には行政の指導にもかかわらず、長年にわたって農地を不法に使用し、焼却・積み替え・保管・加工など、周辺の環境に配慮せずに、住民に大きな迷惑を及ぼすものも多く存在しており、行政の指導力の発揮が図られなければならない。

提言項目

水辺空間づくり

ア．相模川河川敷や周辺農地を活用してスポーツ広場を併設した親水公園、散策路などを整備する。

イ．八瀬川の水源としての機能回復を図るとともに、ホタルなどの水生生物の保護を図る。

みどりの保全と活用

ア．断崖における樹木を適正に維持管理するなど、断崖の自然を保全する。

イ．自然や観光施設などをネットワーク化する。

ウ．横浜水道道緑道を整備して有効活用を図る。

エ．段丘など、田名地域の特性を生かした自然公園を整備する。

オ．整備された公園の維持管理などに地域住民が関わる。

良好な住環境の確保

- ア．産業廃棄物の焼却・積み替え・保管などの不法処理施設への適正指導を図るとともに、不法土地利用関連施設を排除する。
- イ．ボランティア・「環境Gメン」による通年監視と通報を強化する。
- ウ．ごみの不法投棄を防止するため、看板や監視カメラを設置するとともにパトロールなどによる監視を強化する。
- エ．地域内に不法投棄されているごみを早期に処分し、投棄しにくい環境に整備する。
- オ．河川敷や農地への放置車両の対策として、法律などによる規制強化を図るとともに、早期に放置車両を撤去させる。
- カ．河川敷などへの不法滞留者を早期に解消する。

(7)地域組織活動・その他

分野別課題

田名地域においても、人口の増加と都市化の進展により、コミュニティ組織の中心である自治会への加入率が年々低下してきており、人と人とのつながりも希薄になり、地域で支え合う仕組みづくりを再構築する必要性が生じている。地区によっては自治会館の利用率が低いところもある。

また、田名地域の特徴として、工業団地が多数あることから、企業と地域とが協調してまちづくりを進めていくことも必要である。

そのほか、人口の割に郵便局の規模が小さく、窓口が混雑している状況である。

提言項目

地域活動の充実

- ア．自治会への加入を自治会はもとより、各種団体と連携して促進する。

イ．高齢者の生きがい活動と知識の伝承をあわせた活動を進める。

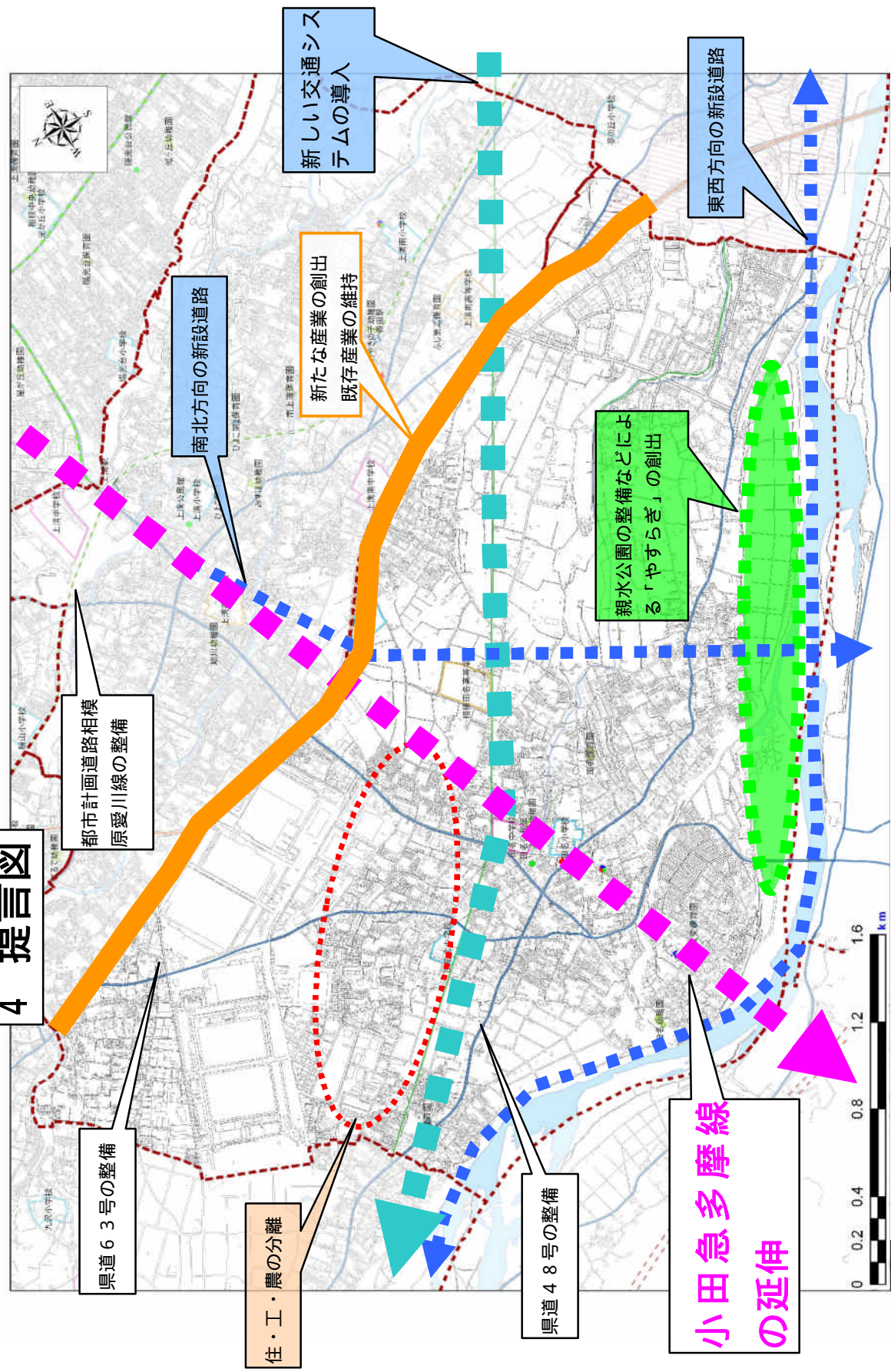
ウ．安心して活動できるよう、ボランティア保険制度などを有効に活用する。

エ．祭りや体育行事などを通じて、地域の住民と企業とのつながりを深めるとともに、災害時の協調を図る。

生活の利便性の向上

ア．郵便局の設備の充実を会社に要請する。

4 提言図



この提言図は、重点提言項目（地域重点方策）のうち図示できるもののみ表示しています。
 小田急多摩線や新しい交通システムは、仮の位置を図示したものです。

至さがみ縦貫道路（仮称）
 相模原インターチェンジ

(付属資料)

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成19年 7月9日(月)	第1回田名地域まちづくり会議準備会に向けた打合せ会議 ・会則、公募方法等の検討	2名
9月4日(火)	第1回田名地域まちづくり会議準備会 ・公募の選考等	4名
10月4日(木)	第1回田名地域まちづくり会議 ・会則(案)、役員を選出	19名
10月30日(火)	第2回田名地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の抽出	21名
11月16日(金)	第3回田名地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の抽出	19名
12月7日(金)	第4回田名地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の取りまとめ	16名
平成20年 1月11日(金)	第5回田名地域まちづくり会議 ・地域の課題から見る重点提言項目の検討	16名
2月8日(金)	第6回田名地域まちづくり会議 ・提言書案の検討 ・地域説明会の日程	19名
2月27日(木)	第7回田名地域まちづくり会議 ・提言書案の検討	20名
3月19日(水)	第8回田名地域まちづくり会議 ・提言図、提言書案の検討	19名
4月23日(水)	地域説明会 一般参加者56名	21名
5月9日(金)	第9回田名地域まちづくり会議 ・提言書案の検討	18名

委員名簿

	氏名	選出団体	備考
1	田所 昌訓	田名地区自治会連合会	会長
2	藤井 ちあき	田名自治会連合婦人会	副会長
3	篠崎 尊雄	田名公民館	副会長
4	金井 日出男	田名地区社会福祉協議会	副会長
5	成井 勇	田名地区自治会連合会	
6	篠崎 武博	田名地区自治会連合会	
7	大山 成男	田名のあすを拓く委員会	
8	嶋原 眞澄	みんなでつくる田名の会	
9	和田 守弘	田名地区青少年健全育成協議会	
10	小野澤 和美	P T A	
11	吉村 浩子	青少年指導員	
12	井上 進	体育指導委員	
13	市川 末信	田名地区子ども会育成連絡協議会	
14	篠崎 稔	田名地区民生委員児童委員協議会	
15	江成 忠義	田名地区老人クラブ連合会	
16	井上 武	田名地区ボランティアグループ	
17	渡辺 信子	田名地区交通安全母の会	H19.11.16 まで
	丹内 ユミ子		H19.11.16 ~
18	田所 三郎	田名地区防犯協会	
19	木下 豊	消防団第4分団	
20	内山 勝	田名財産管理委員会	
21	田所 豊	田名商工連盟	
22	加藤 明	水郷田名観光協会	
23	田所 誠司	農業関係者	
24	今 實	公募委員	
25	関戸 丈夫	公募委員	
26	志村 勝美	公募委員	

(事務局)

企画政策課	長田 尚	山口 秀行	都市計画課	相澤 博	林 壮太
田名出張所	渋谷 史郎	内藤 昌利	田名公民館	小形 由夫	
相模原消防署田名分署		鈴木 仁			